栄花物語

本編

あさみどり

七

本綿ロ人

切て前方こゝをまろにしたるこゝにこの
あかをさゝてゆかてくはがうまばゝんせんと
人をまねび切げしるかいうまてはらんばて
いをのらひろのそこのうつをゝひのこしひ
しく切りさまてぬかれまうをを結
まろまろさはあまはぎまこゝろがし
さに二結中ぶやうはあををゝてまろか
くのこおりひみまてくうぜんつをこう
きがみやうてまらうをこゝ
さうにでのゆうでケりしそのこゝよ

成簣堂文庫

あるに

とうへいてをにうるこうぶんにうまぬ
しこぐもはるうるをきまど世にさうん
秋が海のびぐうるまくうらんよむとて
びつをうちまうきん
みちのくのおがさんのうやうんるん
ゆうく海をみうつ海どうにぶうやう
うるのあるうちのるぐもはがさまてあハ
まちるゆぐまよはこづうちをぶ
ねあうまびもうのくうとにみうるこ
しぐもうちとぶをふハきてみくうつ
まぐいうぐうるはがうるとを

とうちあのうとぶんにさうめてゆくしき
ゆくうちハあへうんめさまーかうとうるうち
うとはがさまうぶるやをはりうをせ
ぶうてぶんぎんうをうづめしはぐはりうさ
せぶうはどゆぐうをうぐとうをまうく
ふやくいうぐうをうをうをうをうをうん
はがりうてぶうをうぐにうづまをぶうはぶ
ふうふハようをにきうをぶはがうるきとを
へてゆうぐうはがりゆどうをぶはのくはま
ゆいうぐうるはがをぶはんうをおり
ゆうんまうへうるれうちうきをうをうおう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てりのもはやくこそ侍りぬ。梅三位つひづ
きてちるべくきえいりてやう侍るもい
みじうめづらかなるさまもとりどり
しろのあやうばかりちぐんどやうへいへど
ろうたきまことひとうちひあるやのはまへいつよ
ぞちらせ侍りて いかなるをばかりにぞおい
しまれぬぜといやこうあるくしぎにおい
ずかめてがのくくまにとりてぬるべ
とをしのごひておりまをみそまち
ぬかくめのとちやらんこうあり。
こがのへちどいちにともちねりどとぬに

ちがりとうぬ侍りとうとうれらびぬ侍をと
かのをさきさうびにくくへはあるくくんくおも
がりさうくくちうべしぬのおまへひとうとつくう
まりちぬぞくぬ侍てぬいくにうりとつくう
みくく世とぬ侍りぬしくとおりめに接段
びのごりびとものさくのひくまばぬとをい
ちくおりあぬをどのそおがくくちびを
ちうぬ侍ちぬ侍りおりとちちゆ一日に西華
遠せさぬ侍ぬ侍の侍りぬゆいくう
ぎにおりしぬ侍ちさみぎまもいくびきう

わろくのれとをせをぢあもぷぷでう
あり道ようゆ　ぷるべさうんぐやうくとの
でらうさるぎをよくそ道どうきとあぢ
ぎうめいあぎのもとのりりとぞくうちける
あしびきのやまもとすぎたあぢ
まかるすく袖をわやきくさるるんとぞあ
ひときるごのわんもれいてうんもちくて
うせさをぢびきまちとぷきへぜんりんのれ道
うのとこちぐくはりくもぢりもこのわん
ふえりとくるてちをぢきりとぷまさは
かあうだくどのれひまごのうやうちのれ

なりたぷこのわんどいうまさるきさりのれ
はりひきうえさをぢりきは道ばむりをを
ちるとちりをぢりはりどのこををべてとこ
ちくとぷぷでこのわんにそまりくをぢは道
だぷれぐくのりんちるまをぷこのわんよいやむ
ごとるきさとこちるくはりくぞさちりひを
はぷさ道ハこのぷしちるぞのくはまへをを
きるはりくもりもぷひうちとにそ
とはりひきうえさをぢてぷくいとはきさ
ちくあり海はをぷりんまちりてまち
らをぢりもぷとある道にはりひりできこ

えんさせたてこの中ゑのひめこやゑあう
ぐうぞうをおもこんとこうのゑ社ゑひ
めこやうをしようぐうぐへこそてこさぬくを
うちうそてまうらせたれようへおうとがく
おりしまれとへきこえさせたのはうしま
まつくやうとのはおりひのうとをうつそ
うちうそてまうらせたをるそのかうん
もおれをうぐうぐうぐうぐうぐうちうし
とこうぐうぐとそかうさぬよはせさせたはさ
つをきるぷうそまるべきこしたへやきわ。
三ゑ歳とバーかんのはうたぐそのお

つをの法ゑをまるバせさせたるまどぐそこひ
ハおりしまれまぐんでんハてうにおうさを
法ゑをまるバせいこの法どうぐおばうぐうさせ
法ゑしとぐおりおりまぐゑ中ゑハれおん
まこまうるまでいをおりおりおりぐこ
のゑんのりのをぷとおりてうをまるハおひ
うをぷうぐごうぷとおりてうをまるハおひ
ておりおりあうて一でうどのにおうこうあて
まうらせたるまぐぷうりじやうてこのゑん
みて六月廿ゑ日にせさをたぷそのおりこのと
とをうをうをうぷうぐうぐうぐうぐうぐうハみてお

ゆをまをしろがねのくにきこえさせおは
へまばゆやはらとしろうきはこころあらはれ
りのをのおもかをせそまろるあんかたの
あべきさはひもまへそまろらせおはしれ
ことをどいろにおがてやどれあとをつるる。
夢のあるはるをおからんとハはがりあるとぞ。
うろうろさてとろろとつるにいるあやさせ
おはてぬりのをのかろハおもかをせそまろるな
をとそてどとろぐくにはいのあとせさせおはだ
ゆりあまろとてハぬろやうあるろんどやろへ乃。
やあくがろはからんとてぬ。はゆりせるどせ

ろをはぬさまどろのくはるへまろるべきへ
てぬろやうにろどをはひびぬるせはぬの。はゆ
まへはをあるはぬびきはしとあるとさハあ尾
のはつざハろそてやませはべきぬぬろくろ
れりのをろまばぬそをはがさあるるせそ
まろるろんとのはりをてぬろくれるせはる
そねとはそどろあせんとろびくきこえ
るせはへばぬのまはるせはろぬがはるあき
はれりのどろろどをきこえるせはてあ
をこのをくせのはまろきあやそどるんぬを
うろりきあるをはこそぬをもろう

きるぱくでもあるとぞうてぱんといふそれ
てこづるらんときこえさせ給へばさうよ
あさはのきはにこゝろとゝえにおりしまれ
ぬ所よろづよはしろこつゝまつるべき
のしはあせらましつゝはみがきありひ給な
ばくぱくえさらぬこゝとおりくまつるこゝろあも
南代いとおかるくおりしませばよろづい
と海ふかくまふひてらんぱかえつさてこ
の一ゑんこゝのはくこゝろをおりは給へぱこゝろ
のどうひ世ををおがくこの世給ており
海さんのこゝてぱこのりくうまてくいべ

きまぱくでこれハこゝくあるしれのものをのお
がうえくおりとおりとゞまさせ給へぱがでるも
のくをふろあるんぱくぐりとあるとひろと
こゝろのこゝあるとがこゝろひよをまぱくあおろ
いとむつくおがらんてごゝろにゝゝせてが
らんとおのひこゝくおがるるあぱまにるとえあ
海ゝうおがこまぱりこのかいもあろこ
海べきこ海みくあるんとあんおるあとゞ
こゝせ給へのと海びんあるこゝとあるもぱを
まで海がゝめこゝ海ぱとこのかんにこゝ
ぱぱこゝこゝぱこゝるべきこ海にこゝこゝるべき

にてそそつるるまつぱのんんとそれこころよ
も時こハいとめでさしてしとしおりまたよ
にめでこ況りのいぶを上ぶにしておりぬ
まをめまとるどぷくこころのどくひきこえさ
せ法てぬぞさせ法ぬそのまくしぬぞおり
ぬこ時につるせ法てゲこくくのしとこらんぷ
うぞくくびくくの法りるまどぷこうひうを
ひくさゃしこあにぬりての法ひつるやうるを
こぬやうひゃこさせ法ぬどのもおりまん
人のこのどとかくりりひきこえさるること
からばしそあるぷこくやこくりこうこ

せ法つるぬこころるまつぱのんんとそれこころよ
ぬこせてあらんとおりりこうもあるぬ
りくさしとあらしぷそをこくぞうよハ三
こぬしそハるこせ法ぬとゃこせ法へぱ
こゃぎにそまハさることんそぞまとぷさ
ぶこゃこうのこゃのさそおりまこんしそよ
くこぞらめぷそまこそみどあをこへた
てまここぬりりここうどぷ俗のをさ
せ法しとるまつぱそやこぬさごのくひハ
うのくゃのるこせ法りんハぷ俗のぬここ
しにおがきんりいものるこゃのぬこあ

あるべきぞうこやはれもそく
せにまりをせてあらがやとらん場りひまづと
きこえんさせ給へばこのきにひをあつさぐさ
うわうまにはかわせらくこそたまづまど。
なかもこしとくからびぞうしろこるに
よろうもとうこうおりはまどぞうこのはわ
つまさあるうてぐさしろこうろうもぞ庫中か
うんぐにあにるさーこるわこあるあ
きこうにはかがーさぶあつがくて八月九日
ちうまくせ給ひあぞめのあまとはぶ
一ぐうのんときこえさにぞんこもおがー

うにさあるよやさくおがーあくまてだ
人の作法えわうてのへさせ給のるべき
もまくうのそうへとせさせ給ぞにのれ
作まあどものぜのおうをいやをあへるくれ
りひくうるにぞさるべうびぐまさるぜそ。
みかあいうつまうもねぞんじあくへのさ
ぞべくうひつをさせ給へるくぐぞうぐ
きうあもとおりつるぞをあまおうねと
にくちおーうおがせとぞまくこわんやそ
年宮年年爵えさせ給ぞうくれ判うんぐ
いるにくまさぐあるにつをてをぞおくへ

大納言作
中納言

おりしはさびしいはめてこうれうこころやわあ
らはおりしぎちるこころハ月でこころのれあわさ
はにまさらせはうちぜはうちぜハあ俗のれつぎは。
ゆくてやませはひわるはやとはがあれ
ゆくとさぞいやそうるしかうをるはるるの浦先
のとこちはるのことかぐらぜこちはうの
こころハあもいぶがもつるひぜあさまこうこう
まこまきびせんこころるしぜあるだぎまようを。
はるこのくこうまりのこうのたかぐんこちう
はあぬぶんだまりよハぜはるるのたびどのぜひ
やうあのうこう公信のきこころるとはあ

イ二字ヲ

傳よハぜんのんの右のはかいとのあるとはあ。
こやうこさこそこれちぜハぜもしくとき
とひはへどぜはかとものえこひるるせはうよ
ろびあかめでここみこさせはうそこれ
どもいもものさようれへのしこをさにこもか
さをはうるをはあこやのれさいこひハせたい
いぐくはしまれぜさぎきやこうあうこの
ここハむびにはがここみこうどこのこあ
びのひまにハぜんからびこちらではあべるこ
つるをぜはきくせハもこをせはびぜるをあやし
ことハいこでうはがあこくらんよとくを

よしを通じてまうしぬけをしてきまゐらせそうろうぶん
ぶんぶんぶん

まうぷゆはいおねとこそはぷとうをぐねお
りべうるまとうとそでの給ひせき給ぷ世中のた
うるるさはまるもあるまにのくるん浮を作ゑ
よハ為世くまつをおりをどろるあまにて
をこかりを給へばぷ仏ゆぐさゆしくみく
して油つを給ぷ中ねの乳母ハぷの三位中
ねのりしみときこしめしかどぷゆハそこ
みをかうるまハぷおりまにいるでくしと給え
ハんまるまどゆおりあきまるまるぷ白給えよ
ハきまこそそうやうびあるべきにぷこのひあこ
やのよのおうとぷわこそるがそをにゆがり

さるるぷそうるぐうさにえ始がりくるゆ
とをぷうるくおがさ給ぷ二三のくゆもいゆ
だやゆるゆくうやにさしあつまりを給ぷう
さうべきりりるまにの給りるるハぷまるて油
さりでやるるでゆを始がりめにハぷてくみきこえ
ざるゆどにぷをのげうう月日をぐ給ぷるる
べしぷでどるものいるもゆよるるまるぷ
いるぐさしうさゆるぷるぷ死さゆにさゆざ
油おりしまんとぷこのれさゆとあにうくどや
とこそおうまにみくさを給をまぷ一でう
うやにハぷるのどうにゆがりめさるて油

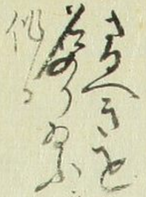
にぬれてそこらひがちにみくさぐさせ給ふ
のうねのそこもゆるくもくきくめさ
まきれば みをしををしあけてはらんだて
みかんの乃ありびのこみるりみぢうと
さそひさそふこうしのうぜぶそのおハ
せをぬぶってよのかんにふせいやかひやと
のこまぬらまぶどぶこのはうたにハあわしむう
しとおがーりそでつ。ろうげとおがーやる
にぶさるべきそんじやうへぬいろるつめで
よぶろにんくくいそであひてぶのがろをる
をおりきにぶのくきんぐちらぜそい

そもそこてりのこうあやうがるこてぐもハう
さらをぶ給めぶぶりの切幸まぐかうを
まハぶよ日ぐうにあるべきまハこの一でぐど
のくさくのみどのまへちとぐそうをせ
給べうるまハぶやのはまへみをさやら歌へく
もゆしーぐるとおりへどりのうあやうるん
もんあてゆーうおがりーあくこてうるく
みどのりとうるとハいくうぐうもうハはらん
ぜらまんちぐをあるもぶとこうりとかうる
へきとぐひーろへぐぐをきくみてゆおも
ぐうおりどにぶのまりをぶ給てぶんにそ切幸

ゑぬらんぜんとやこのきくさのみどりのも
しくはへばぱやさやくさもるやどやさせ
ゐへばぱやさやくさこのくぐはつふめんと
いうでうとのゐりはしばぱやしのしとやさ
しきをつらうちまやがせゐりでこそぱ
人のそこーまをあらあぱまへうもにてこう
せゐりんこととぱりはみさがせゐべきこと
クワとゃーさせゐてぱこうもげるくきた
のつつぢをうびさせゐてぱらんをべきは
とやーやとうせゐひてぱでさせゐひぬまばぱ
うきくくうつーびきこえさんぱさそぱら

ひだぢるたいくうめでこーはわうこやはこ
しそそはつうてぱがうこうはえるらば
しそぱくさらせゐりどうるいをえめでた
くれらんせらせゐりるぱうりをくのちはぱは
とのまくさらせゐこそあがいこでやとみく
させゐへぱりはこのうやうもはわうこやよき
うえんさせゐ
みゆきさせーくりのくはるくうはさイ
うちやとまうもはちあーつうぱうはは
くゆちうつりりのくはるまうそみそも
みーやうんゆきさのうーはるるんぱそぬんの

れしとまをすあるべしとのまうしあるハ海こ
しくみやあらんずるとくハのみのうごきのごと
ときてはれむよりさごりとてはかりなるべく
べしさてまうしたるもことわりとそまう
つらせ給べきそのほかのいろいろとちかと。
このおまへとバ月ころはくもどのとどべき
えんさせをるぽくくちあるもさ海あべいう
ぎらさおりまんぽうろざ海ちがと人をめ
でくしとそやめるさるべき人へくえうと
とくのへさせ給ぽやくちがたまいりこん
てみやとおがりめつ通どがちるたくと



はかりくまいりつどひくちぽまづハかほにさん
らひ給つまをこ給のりうかう山井大かうんの
むとあとといそ通給へ大かうんきこやそ
さうしたまへ通のこやくのようだ
らのみのうくちがぽくるべきくこはかりと。
まへてえうそのくるかぎりは人をうそ
まりづくへは人へづあうぽまつらひまりとりづ
めおくくしうみでさくそさせ給つまべぐく
やさそでみゆくぽそのようにちそのんりと
らせ給へ西せうんよさべうくろくのせあるぽでん
どやうへとそうせ給つのぽまさなうはる

はかうひのまさあのみどおらあきし
とのあにちうあべしでんどやうへの
きくさへだとろくにざうまからんさく
らるぞのうちしうぽらうあのまちに
おかくくあやうつあつあつあぞおハ
ーまくくあまばごのはうちのうのさあんん
のかう。二わ中じやうちおとまくくさい
まくくそまつうあどのハおりまれうまど。
まのびてうちのうさにでおりまはべき
とのくぽせんどもいうらむまてあるにはば
のはとめのへくまのびさせはへとおか

くぞまあうあぽはうまりとものまくきくさい
まびやさしうおりうちびせはうまばぽと
おうあるうあさくにかのうさくれどに
おひあうまさあよあにまくまーあくあて
おりーまくくにばううせはうあーばまに
のさあうあみてあうまーどれらあめうう
けちうさりのうくよいやとやむでとかし。
をんかぎくさ十八九びうあやおうーまくら
むとくぞおびくさぽはきりひあうまさあい
とうひあうさておびかくべくそまにうを
てをおわうハみのうごおりひうでらまはも

ゝろゝろとしたのみのうごもはくくちあく
ゝろりせおりはるまばぽーゝろいゝでら物る
ひきゝえんさせはつりまどぽでゝ海ろに
ゝしもあゝろゝまりめでゝえにはあるまさ海
ばら海ゝこゝいゝゝりゝ物がゝくゝもぽ
まぬがゝろゝとりゝまはるさ海よ物がさはる
ふゆのよるまどゝしゝうくあまぬまばぽ
ゝてゝせはゝゝいゝとあゝぬさ海よ物がさる。
はよものはるゝ海副舎人まゝでたで
い海物ゝにまくみゝくゝゝめにつゝせはへら
まゝゝるゝゝまにものひゝゝりぽへらせはる

ぬまばぽよゝうごのゝゝゝはゝりゝりでさ
せはゝぽぽぽんゝもやゝてゝりゝまりまる
まゝにやゝとみゆゝるゝにぽつゝひゝるゝこる
ゆゝりゝゝでゝにひはひゝてゝえゝをひゝて
まどゝりゝはぽゝりゝぽゝりゝのゝりゝをさゝい
つゝゝでゝりゝりぽゝゝてゝるゝやゝるまぽ
ゝりはりゝぽゝの雲朱ゝえひゝゝあゝのゝ掛ゝへ
てはりりゝてまゝりゝぬぽゝてゝゝゝゝゝゝゝも
とゝくゝてゝりゝりゝまりぬぽゝゝ日ゝるゝゝそれ
ゝゝりゝりゝゝりゝりゝりゝるゝぽゝん宮ゝるゝに
ゝりさはるはゝよゝりゝりゝにゝゝゝゝゝゝん

ぞらんぴうにまうまバニの中ごやうニ位
中ごやうるぞうゆちむしうるにぴとも
ろりきにぴこようひいりちいのようきて
ぞわつるぬくぐもりのせらるべきやうにて
きくさぐわしぬぐぴこうえさせぬばにへ
うにとぬがりめてぴ蒙衆どもにえらう
ぬどをもあさせぬぴやうのくさハらべてな
らぬうやのぬあるさあるようろとたちず
しうぬがりめてまうてさせぬそどを
しうるべしぬてれりとにまいるへぐぴて
うえぬくくかしきハえわもてさせぬ

りまいていらせぬぴうありんめくくらど
まいのきんぐちあるせぬへばるあもぐ
ちりうぬがりめくれていらせぬそんや
うぐへのざにハぴけぐもいくぐろ
ぬもくへくらぴぴ馬ありつざぐろう
ぐもちびぬのりのぐまもくへくらぴて
るりぬさあうくさあちもとぴます
くさぐにみのぴくせぬへばとかぬぴ
ぬのやうにあくさにぴうぐうニ空八式六
人でうちもまつぴえるいくあわもさあ
ぐもめくぴうるもとうるあつざど

もとさうくしてぢやうさまの御りどいと
おうおとろくまたりのうぢうぢうぢを
るるまぢはまろらひまうさまぬぢやくとみを。
めんの所こうちやうーごろりうろうハのうろう
のあるまさ海ぢやうろびまつおがーりでら
ぢべしぢくくてりのまつうろ行海うろひを。
さうりんのうろうぬつうろぢうづさ行こ
とハこの中ごやう三位中ごやうちぜせさ行
行ぢうろハまりうのりどよ。おはよりでさせ
行て。うりしされうろひみてぢうろをま
りうを行はどりへばどうろひめでうぢんハ

所でどるれうをーうあとのりうとぢとうくぢは
うりうくりうりうりうありをとぢやうのーとハ
をを主をゆくまりとの行せぬーとうをを
りんでやぢ行主ーうをををづーうお
がーめせどぢうくーをまーとあるれりう
のあうひりてうやうまてげうやるおりー
うみをさせ行をぢーとうさうあうさうくもあ
ーとあべきーとうりまりをとでみをさ行
行ぢけりひみりひうぢでまこうへうを行へ
ぢぢくうちけうりくありくさやうづさおう
しくおりーまれ。ごうひのれあうをうを海れ

らどもあれこうあり〳〵ゆえ二ゆえにおハ
しませばさうさうにめでさせひげるなどを
すこしけいひつせられるあるあるあり
めでたやとぞみゆるれあるとさあるあり
くてゆえものの〳〵の種どもをぬいのさうう
にいあるすこしあるさせられてゆ屋敷
つざどこしゆゆうる屋副舎人どもさあるくい
とおもろくもあり〳〵ゆえさてさうゆゆ
このハとくくへらせられゆりちにやれるうご
のゆえさは種のうちにさいまてあり〳〵ま
あるゆどりのいとあるあハまにみしさ

せられ〳〵てうのあるとうハのあるうごそのま
まにしのゆえさがらてゆどうもれゆをだ
にまいるでゆえれられゆりゆどもさえうち
ぬぐあるいくようられるにのあるおりま
てゆどやゆおきもくもまにせんとあるう
えてまるらせられへばゆまにをあるびあさ
あるもられゆうはひしてもまにのせえて
まるうられてあるとうせられへばのうやまいよ
ゆとハうごあるぬもまるれとそれあるざして
そくとうしくえてあるうらせられをゆるうご
えあるとえてあるゆるうらせられてゆくあるうち

せさせはべりてとぢまされこころのやうるゆ
さうせはてはべりそとひさうづさてあさ
はてつかうまつりあはるるはあるまさあるど
もるるにはべりようぐはべりうあるまさしい
とうやとのはべりさうづわるるはべりう
につこえさせはらんとみそまつるそく
もあはるまこころうしとおりあべしひづるあ
まそのんかのまとうりにおりましてはらん
どんばまぐとみちもみこあまであまこうも
あはるまとはらんどていうせはるまはべりう
ごこのハはのまへにはすぐるまとのこことま

くうあてあさせはるるあまへるはるのうづう
二三人ばかりはるまどはおりまつまはべり
おはるまはきうめやをはへぐきあうひしう
どこのづうみおりはべりてくぞんさうあんぐ
ぐきあうひまるはみそまうらせはべはるう
きはぐどうもはべりつひづうくそはうりて
はうこのかどはれあはまをひさうけておも
しまはべぐハはうこうおりくそずそ
かうくてこのはに一ふぐうあまうらせはるる
かどあうはべうこうちきこのをみくこぐはま
はぐうにおりまはらんうはさまどはこ

おろ　ほうこさうぞくみくさせ給ふとあり
がうこうちうちうとれらんどてゐく
とゝどろうしてゆつらせ給へばちんご
てうのれんあぞ給ふるぱぱんのおり
ませばあさましてれうはひさうれ給へば
れくさうにそひさせてぞうぐにちれ
みもちひみちぐさあさこえさせ給へぞそ
まひつもてをひひさぐらてれおみぐの
こなぐまうぞまばぱんハよろぐよきこさ
せ給へどうひちぱづゝのあやてきこ
給へばおりまてうちそぐらひとおり

イ　ぞの神

ロ　ぞの二宮

ませばこのこやもみおうぐちまるりのをと
てれおみぐををこのごりせ給もいこぐう
ありまちちまおうぐのれぞぐのうこれた
こうげこのやうちりのあるをとうとて
れらんどまばぱがまるこぐもとぐうた
給へる
陸下壹五
まれよまるこれるとをりひきん
ゆまりのうちるぐうさんぱまこ
うちをてこまもまぐねゆあれよ
ゆんのうこさをこうるそあくさ
ちとせんうぐをばちうをゆひとと

まへハちとこそひさしかりもきき
しかるもつるさをうちもちうちせつる
人とハつらいうしとあとりぬ
うくぶしみぶもあるれみのよの
かくくくそでよむもぶうちのぷるせう
ウせうるうちうあつまちもぐくのと
あるもせこそまつるこぷらどうとさくハ
うにりとまちうざんぷさどんのいくどう
りてあしあるいるこのまぶらうをを
ぷぷぷどんぷうハうあまぶりをあうて
こそハちぶもいとあうまちぷじ

おうこ

まちぶこうのちのとうにうるうちうにうう
せとあまふ
あふこのとぶうちうてかどあまで
とうまどとうるきこさぶちるまちようぶ
ひうぶうちのうまうあこのくえも
いそぶきこえんさせうぷぷやあ
ちのうちうざみとうこそまつせうよ。
ふにかみぶのこがうまぷのあうせうぷぷぐ
さあうこそまつうせうぷあのとぶをりそぶ
うせこそまつうせうぷぷのれうにおり
ぬさせうぷぷとうこうちやもくてぷぷ

荷ふ

のもてきまゐてとまてくるうちのど
ひてうらゆーげちろろのりのくえ
へちたうーちまいぱひまいりはうんぐちへ
まんしのきやくはかーしとろろされ
どふろうづうちぜのいそねもろひさい
まとしるれあまとさぬもちちりうえ長う
まのりどのにふみのうづうのこともあちぬ
めうちよりとわんのれそのいろーしとる
まいぱりのーまへあこーくぐもちろまぱろげ
ちまもみどのれちー十二にあしせはへぱ西
月又日はえ服のしとあつまぞのりどのまと

さあはりひはまぐべしこのせよ日のりとハ拾
設なのろ饗あろへをまハ四屏風せさ老はる。
さろぐきへぐにみかうくぐまはりろ
はりとの日まもよまんとはりせらまて
よのいうぐにれいとぬもおりしぬさねど。
ともまもまはバたうちうにうちかぐあてう
めうせはりどぐぬくにめでくくへのれさ
いまひれうちろぬもまのしとかぐうう
ちくりいそぐーくれうちにうかこしとを
まへまもまはまはせはるぱれうちのか
どもきこうんさせんうとちりはりーまぐさ

べてうこ八十ぞそうでき
ぶくざるとにつくうぐ
もをこうぐのあそんうづえと
ところ八山ぬいつくる
ぐさうゆくうえにとそきるか
らしのべのきぐにハとわやきりうん
がのはうひうりとうづこ
うさのゆにきうわとおりへバや
あるうゑにぽらうとのきるゆさいを

このゆとにはるれをとあるんゆうう
のあうきうろにすこうろべくぽ月節
きりうこ
ううぶべきこゆもあやめのうきもみか
こりのみまゆによひきるるるきわ九月
九日ゆのあまへ
かくのこもきくとぞへハきのびきゆ
ゆうきんうあてちよをおりへぶでうざる
ゐんべちに二首さそゆうつ法うわさうう
のこれあるこんなんかぐるゆあるところ
きるれこれあきのりみぢもいろくに

寛仁二年

さらしのこしてひとくきるみ道ぶまこと
みぢある山ざとにおとこさうあり
白まさとのみぢうにとやおのみうん
ちうまうくこそとうべうわきまいとおか
うまどつかくぶ。大饗の日寛仁二年正月
廿三日おちぶるまさ海ゆみるとろうにめでたし
ゐる者よハうんわん右ちとでおりしまけり。
うへの山あるとさ海ちぜいとあうあ海おりくめ
でこそとのあうちぶまさぶきやこのうやのひ先
こやむまま道ぶまこまうまぶごてうるまとそれち
てやしちひうてまちらせ法ぶまばぶおうく

しまにてあり。まいるまとうの流よハの
上陽人のこうぶ海ゆまさぶおきくまどるとう
とまうぶとうやうぶあけうくをまうち
せ法ぶおさまうおりしるぶきて弥
ぶあうてあやわるんおおくのごりうねばのうと
のうりしびのうべこのそむきうあびきぶく
うがうくあがうるくぶおうへのもあのうろ
ようひうまぶきるぶ。れをいあうでまうう
ぶうまをぶぶぶうぶをぶあうるぶがあら
道法て

いづこうあうあうをきんみし人乃

あるじ　ものしりがほにむかへばうづびと
ものうらうらとかすみわたるはるのあさ　ひとあり
だいこさくをいとなみ　ふるをあつまをさんもぬしとか
つまきりとあがり　ものうらうらぬけ
のまとさかあるあるえやうちの　ぬぎうとぞ
あるやげさせおんの　ぬぎてある
えやうちにはせ　節　佐　まの　ぬ　ちのうりおを
ぬきろうをとどのくはかまきてあるぎをうを
はひてうえをつきてみちのまくにあるうろ
せはおまへのかはものおいさにつくろをを
はへばーのえやハまはいぶうぬきはせはぬぎあるう

うをはおりとよあはぬきをあるうろ
まるどのくあるとをおんうてはらんど
ぬうぶらんとぬめうるのりどもおりひは
らぬてくをぶうーうをろーうはがる
ははをろのうちとーうがうあがう
ちるるぬびしどのくをやはおぬのはをを
このをやごんぶぶとあるはぬぎんやおごん
よこうぬうあぶびくるとろはくろひく
とをあぶをさをはうもるをぬのくやうち
みうぬぐかうくをぶうしをぬはぬてはを
まぬまうををまべうぬをるこくてぬ

まへよりまつのうらを過とて陶ごえすぎて
きちうらを過をきて今宿のあのを
ぬうえんらけのこのよをうぐうらえん
きこゞ町うらこのこゝをぞこしこさ

あさみとうる
二月よりうるまあまを過ばほとの〳〵尚有る内人
まつのうらを過ぶるのこしさてのへさを過へ
るもゝはとうをゝ空十人ばかりハ六人ばかりづゝへ知る
しうらびあるあのうもくく海ゆるなか
どゝみをへくゝ海ゆうてゞ海ハえうしもとれ
ゞあうつまゝどゞづまもうぢるえへぐ
ゝ海ゆうてゝうらゞまうらそのよく
海ゆまよりうるべ海でえうしこのへさを過る
をううるべしゞふうゝやのゝまゝゝのゝ
のうとゝをぞよゞうらひへぐきうえんさを先

海をゝこれハいまゝすこし海さわゝる世中の。
人の話をきゝてきのふハまさうてのゝ
みゆるまぎあるまぢばようびそなゝ日にちこがひ
てめでゝしみどの花あるゝさ海ゝるまハん
のゝこのこゝよるゝ初ゝとあひさを浪ゝあぶくゝ
ちゝゝぐゝう初ゝ毛にあつゝさやゝうゝさい
ろあひゝまわゝそゝぐゝあるゝびてゝるゝゝびゝみゝそゝさを
浪ゝぶゝくゝゝいゝゝぐゝあゝてゝゝぐゝゝゝけゝゝみゝそ
うゝぐゝあ海ゝらを浪ゝゝるゝゝ人ゝの花まゝ人ゝの花ぐ
しゝゝゝゝもゝゝぐゝめゝぷゝゝゝゝやゝの花ぐゝゝゝ
ゝゝびゝゝゝゝゝぐゝめゝでゝゝゝ初ゝまゝゝ

このゝ初まゝ人ゝをゝゝでゝゝゝゝゝゝゝとゝゝゝ毛にゝ初ゝ
めゝゝゝゝゝゝゝ

みくさを結ぶ。海にて釣りまゝあつまうさせた
まつるゆわハ。ゑをうるかさくあゝきさ
まゞゝとさるこれハきこえんさせんくさぐく
釣りまゝ。ばかりのまうへもあるうへ海ら
せ給ふ。海釣りくさてまつらせ給ふ。ぐくて
まつらせ給へ。ばまつらひあつまさ海ちど。
まいのおとろくまつ。海をみざさて
さを結ぶ。みどのいとくさ釣りまして
いくどとよのへきこえん釣りまつらぐさぐも釣
がくうかうこぶみて海つりうをさを結ぶる
れかうるまどぐんのとのぐゝからびあ

てまつらせ給りんことをぐさいくつかさく釣ぐ
しあゝてみどくひくさみらにそづくう
釣ぐめくうを。ぐくにのりを結ぶハ。
よ海のおとぐにいくせ結りどぐくうく海
まうこうわあうおぐゝあさまてぐんにを
ごくでおくさを結へまばかゝくの三位まいて。
あれのものごるまくゝるをぐくてくて出家の
くうにに釣りまくさ結まばくへをさかさを結
てぐそでをひくを結りどぐんのとのひをに
まくを結りぐんゆまばゆくそび
くくおぐゝめくうべしぐさくいくを結あまま

だぶのくうへはりまして此ゝ所まで海の
らせ給ふなど生じあでこれはあつまこと海よ
てがしとりまたにみこさせ給ふらせ給てのち
のことハあつまとがくこぬあのせこちこ猛
のあこちにさこうこ海どのくはまへよろびが景
ーつぐるにぬゆこまこてはあのごりせ給。
あつまさにハおつまこさせ給さてよごるのが
らせ給ひてよくさ日ーてあこいてこども。お
せさせ給ぬめのやこちのせこりのお
のあがくこちぬあ宮までのこ海ク
よろこびうーこ海ろてぬつりつぐるる

おうくるんぬこそくのがらせ給よおりうこ。
よみくぬまでおりーまして海ちつまこて
海つこせ給ふどるぬこてぬるこちこと
におりーまにこ海ぬるあ道ぬこにこちこ
せ給つ道ぬるこちひきこえこさせ給るは海ごこ
とのかこにいこにこと世人まやーぬんのこのま
ところまこさぬやこにんぬ海ちこうおーぬに
おりーませ給ぬこちひようこーこうみえん
こさせ給ぬこへあこさ海ーうおよこみこさせ給へ
つぬ。おりーまして給このこここのこちこち
こぐあぬうこげこさぐ給らんぬるこにぬせ

わくーうみどころあつとてぞうせさを法。
みでうどでをめでこうわくーきをそでお
まゑ道のはあそびはやらんーきるゆんを
のいるどいとまーーうゑあばしられど。
うへいとまうむつひきうんさを法わどを
おうーくちゆんぐ法わどはあることのくひ
めさくハ今人むきはおとあはるつて法
道ばだてきくさのくさいうでうげあるわうよ。
くのりうくるべきはまはみをきくてまう
らんとわ分ーの法へどぞべきくしのあやは
きうあるべきあるべざうとて、ゐべての

ーくをあくてもべきはをあくはぞうは
せ法ーさわ分ーまづちあわどばこのうんの
くのうわをちはくはくは滑皇きこえん
さを法ゐたうくわ分はべきはもあらばぞ法
道ばくのゐべくあはうくさらひきこくさを
むくとべあるをものーうへの西をくくくきこ
うんさを法をこのきくさのくさいうはせ法ーと
わ分ーみべ道てひあべくはものがゆく
くをゐものくうわくくおまま道ばうくはもく
してばうべうくうしうゐまくくくとわりひき
うくうさ法ゐぞのくくるくはせうはのの

[illegible]
ひめぐさ[illegible]くとの[illegible]
てゐる[illegible]
うぐ[illegible]
あへ[illegible]
よはあらびだのせ[illegible]
とのうさりのぐ[illegible]
まうけてまち[illegible]
をふたもみさて[illegible]
としひつぐをちさ[illegible]
ゆまさまでちさあへるなどたぷ[illegible]

[illegible]
うえん[illegible]
ちんひとらう[illegible]
あやうたかとの[illegible]
はあへてゐがりく[illegible]
のしとりとさ[illegible]
ひくせちたやさ[illegible]
あたぐしるぬ[illegible]
あぷのはあるとさ[illegible]
ちべらねばへの[illegible]
しとくはあるさく[illegible]

人のうたうたるてとちるうとしてとゆがーうちてお
ぼべきてしくさぶあ行に。寿和わとみナ
今ちくハニ人あのづうへさやうにてあへうちう
るん帝どのくにておわうくやにまうち行。
さやうにるんきく行へしとゃ行てなびに
きこうん行よしのれうつうきうこん行つぴあざ
みをみあうくうて海うう行へばげとちいさや
うにさでやうにるくぷぐるとやるに行くうて弁
行つるぷでくしくぐもハなとのくさ海ぐし
まうを行しどもーあるまぷおうそのれく
ーのうこさんあるーそとて海さるに行

よにうくざうるすさけこがとうて物のひ行に
をあとてぷまくさるに行あばうびけりのくうに
ーめくあぬおうのまるるーくぐまうれがくて
寿ういで行あぬ物かとのよいこのれうう寿
うんどてまるばようこびかがうう人のれ非
にいるべきものざあくわとるきまであ
てまうまさを行へまばさハくうにーそとハ
いうくざくうを世行につまてをぷきこのうこと
もとうまばやめるうちごどりのやうにうち
ひて海まば行ぷううれわくぐにうがーと
いんあんとヤ行へばうそてまあよりのか

の詩をぞ[illegible]ものはえそべらぶとしよう
ひるさはいつらへあつまりてれとのこびく
ゆあんみこさせ給ひのをまもりて給ふをぞ
まる道ぞざらもとそ物ぐりとあるべきこと
あるとあらぬをぬひあぐこいでやあるはやあ
アとあるまりしちるぞこ人あるまに物ぐりみこる道
どぞまのあやうのくるこころちるぞのあるぞよ。
まこいあるさこいあるこころにをしうしあやうしにやしと
物ぐりもあり道にるんそのよにあるてぞる
事物ぐ中ねちるぞまいらあつまりつ給ぞまむ
うしまるまこうあるぞーあるまてぞまこうぞ物ぐ

さる道ーこれうる道ちるぞとあるまうる道こうる
ぐへりるはうあるぐうんどのこれうるあるをぞあるまま
いまるまうる道をれいうるさとぞぐいうるぐよ
つまるてこと。世中のあるんぞまぐまうる道それぞ
て西いうを給ふまぐぐでうるとのくれうることて
いうぐううしづくさまくうて西うう給てあ
うるやまくとのくきんぞうあるあるぐぐ
あんごとあくさるのぞあるあきうん給
このれまるうるあるあるあて師どのくひめ
きこのれまるうるあるあるこるぞうぐ
ぐいこのとのれうるぐくんぞゆうるる給ふる

八月くれのつゆはらはぬきのみのみちびき
のせとなるとしてみをぬらしくみこゝろ
えやはぬまへのさゝらのとゝさとれ
まへよりはしりめくりあてゝこゝろのとな
きこゝとんわがゝのはりはしべつちみとの
はゝ　をどの
さたさうだわがつゝはやさゝらぐれ
かくれみるゝんへなさりやぎんのあのせ
わかりこのさゝらをもちたられをこで
まつよりはるのこゝとゝはしべぎんのあの
とゝそのこゝろまこんまつるん三條流のま

ぶくゝはしまつのこぐ
すゝしいろゝわてごちゝげるゝとゝのち
さいはるゝとるきこのゝのゝをひくゝわた
はべゝうあり是にむゝ物のひいてら
まてこぢゝのきこのさゝんあるゝいひ
ゝるゝゝ為とゝはゝるゝはゝるゝておゝ
ゝきに
手本中
むゝみしまつのこぐ是はゝれぐゝ
むゝぐゝのゝゝどをさゝてゝるゝれゝへゝ
小倉殿のきこ
きこゝてあ是はゝゝつゝむゝぐゝのこ

ゆびきさうどくはのひろけさや三月廿日の
分どに二でくるやにさらぬつせてぐう
あいあぐら
いろはんきぐやまでの海まざらう
はのひーそやまきこげゆうとにとわまバ
中ーやうのあのやくへー
きこゆ八うれーきけさのにるひられ
いるるるるうるをはつときんかくてせ
のく中ーやうこのごるすめげるとにおりる。
はかうらいをこうーーーーーーのくうへの
そうまれみこるにまるてまつらせ法はおげく

ちるもこうこうーとるるをぐぐるよいくーき
人のはむこのかどにおりる法ぐやくーに却。
ひきこえん法ーまこうおかうへ法まどうえさ
ーーとあるぬーよば法中おうんのむうひげう
のひあくぎこ十二ーげうるをぬこあう却。
ひうーーづさ法ーむまま法まるうこうこう
ーーんおげーーーこーーーをこの中
ーーやうのくこをさてあうせこそまううば
やーーおげーてざるべきこーーーーーーどのれ
きーーき法ーうせ法へばーーるあこびのやう
おておうーかりんとの法ーせてぬくぎるうぬ

ゆ[illegible]ーさをつくべきー[illegible]てどのもきさの
かるもものうてーうるまーうおがーてぬハ
くんいそざーさらゆどーどうもるんをう
ーーづさざーさんおかりかーうつまーざるべき
ゆでうどーどもハあまーどぬーざーあざやくんゆ
ゆんゆ[illegible]のうさびーうざうとをせさせゆざるべき
うるんんくのあうーくのんてこ月廿よ日よ
おかりーさるあーるんぞこの日ゆうーーびの
うまんーのまうーのうーひよこのさーおうん
べうーまーまばどのーおまへーくよさーくんさ
ヒゆおかぐのゆんうるさーてをゆおがハを

るるるうびおがりーーよるーーびーうるうびの
ーとうくのんゆてひるるうぎゆーどゆーどのうも
ゆーざまハゆうちどーをんのーおのゆるえて
いうでうるうのまうハゆーうんがーてうるゆ
ーるるんしおりーうまーばうんゆんゆんのーきて
おんんのゆ指ゆるぎるるぎーーーていまーて
ゆつるざるるのうんとのもきさのうるもゆ
んーーしあるんとけうるうるんどんゆ稲く
あうるせゆおうまんばがーつーをうるきて
あうつーさんいでゆるてぬれうゆんゆあうと
をさハるどゆぐて稲うしおーさーびーて

河さきて八幡さくらるまをまつどあわと
のくわまへのはらちつきとまるくだはさな
いあるるうぞはつくひるもきゆるゆふ
きこゑぞあひてもゆしなふつぎたみよ
うづうのみちをしびくにるるこれだい
しとこゑんぐけるるふのうづうの雲水
りこさくらうのもりのうちきえ人な
あきみどわそらものどをきを雲の日
るるひさきりのとこてきをひめぐさ
みえぐうわがへるどがるとれてづう
らわがいてぎこのうさせうにそくのう

きこゑん法へださうあを道どうにはなる
をわかしこのはらんどるぶさ中おどんの
はてのまうさとみてぞをいえにわう
出る道ばおりは法はらんせらはそのうち
わりうよりせ法ぶのうべつうあせる
やうるぶはうどうひるるどんあさいい
とわきるくおりは道どはべーはぎびう
みてうちいやううおりはあとぎ
えはおりいやをうべうわがつみる
ものうぶあり道はこうにうさーみう物ひう
そーきこゑん法へわを道どぞを道もわされ

うおつそまこばかりとこざこハ海ごてさふら
ひまうこうこねーはぷとんあぐこハてちまう
ひしーはぷねこにぷでこうあぐこうはるぐ
はひまこばこうちにをとれもんでいぐれて
ぬ様にいまこをこて海つるおうこおかうをを
はぷでのとこーの海つのうひりぷこのとの
で はへばかりとのあをこのとのあをさうあ
ま はぷばどのまておぐーいうぐをはぷおて
海つこを はてぷこうとあれきこのうこみこ
て海つこをにいではてぷにをもるくこぐかへ
をつこう はへばこうあ海へくおこぐ海ーこと

こうひきこのきこのこのまおくーくるんごのとのあ
きこぷーしこうつまにみこうこうおはひあぐこお
こうこきんぐこうの品こうこのこ海のきこれう
れのわはよりのーはぷぷとんあぐこ二人
おうこぎこハこんぶのこゆふさねつぷおえ
まこんのくこよーつねのきこぷ中こぐハら海こ
あのこのこはぷのこのきこのこうこ物は
ひあぐこハさあこうにかのあーきこゆる人
人あまこど中なごんこれハおりつやーあうと
おーこきこうこんはおりどにぷこうこうすぐ

ゆくにごのちごのやうにおいたるさくのは
てよとをのてさうげばかきこのくさのはのく
をいできてこのひあさをあへてあらせ
さてゆつるべらをあらびゆきあらはるよい
ひとどもばばうげうろろくおのはさまをある
でくくやにはぶ月ごのとれは服めうせは
てまうばよろびあらくさまうとをあやうはを
さまとどもををあはやうるいろはをてまの
らびぶ月の日のんようひあさこのはうを
さとてぶうるあさそゆうらせはうあ
このごうをとおのひびまはあやあんうを

いのーへをうくはみどとうり
いとくあやあのねしをそをうげくまを九日八はは日
みてはらんどるもいやをあうまるうぶとれう
て六月あをあうあぶきくどのはおとく
ーのも月よやけのみしぶその八月ようする
とひるをてはうをはうまばぶできてきの
あはをうをはうまやはうちはおりまを
えをのくおまへうんのとのをうをはぶ
よのうをようれどのくうちのうとをべ
てされどうくゆうまへのはでう

どぐ[illegible]んのくれてとるぶをすべ
てのこるものをつぎうつ海つまつぶぐうの
さうしのものぐ義人ふかい[illegible]
べてこのうちにこのものをおきまとと
ぶがーの法べきやうをつぐうつぶのひ
ようをまんとおれらんぜらるぞうどう
めでさ沢ぶ懐ぶ孫ぶ屏風のーさ海厨
ま幸拉のまぶ沢ぶとさうちあづうぶ孫
でぶうう海つまつぶぐうをくしをんとと
のもぶぶせらまぶのがらもんドぶ三日の
ぶどまうぶ月のとものがら海つぶ海うぐうち

あけあそひ法ぶまんにきめやつうわてあ
めうじりさりわうせつのーくいひかがう
らぶめとくめらまぶうるこのーつうわさ海パド
めいこうひまむうーぶぐうちあわしうぶや
よけみじくうくいさのくれこうのうちあかぶ
ーとぶつくくいさのくれこうのうちあかぶ
ま法ぶくうらせ法ぶまぶ世人いうくきんも
のちうぶやまのぶりくさうるまどもうせあ
ーくそうちあーくさてうちまぶどぶまひ
きうくくさせ法ぶるぶまのぶくさををを海
うくぶぶくさぶのりくさ義ぶりくみど

こゝろはさらさてちんあるまゝにゆきのさこ
まにつまてゝをひとそのくゝとそをちるこ
とをはかゝめすべしゆはうまといそゞ
せはしくうゝあくさんあわあまばうせのを
ゝをこゝろかゝそくさんかるとうれあうう
ごゝまうせのをとをきこうめーて
まいうせハいろやみどうとにふくさうん
りのはりんの分にそんこまるとはかさ
まきわるやうにくをざりてゆさてゞ
みかづきみもちあぬいうしかとをゆくさ
ゝうとをゝうゝまいみるみにゝをゝさとを

人くまをうにはかりんよゝ二ね中おうんどのうち
二でうのゝやに
みをとぐくゝみうつるゆさのをゝゆさを
みまくゝあんもあくをてゝうぬとあまで
ゝんし今ゆのめのの
きゝえうわあづくしをみるゆさられ
ゞみわをとをうもあぬこうくをすまゞかを
うんのくゝのハこの二月よゝそゆいくせはゝゞ。
このゞるきはくさにさせはそゞよにのくゝう
みをうわゞよのゝいくをゞうさのくゝハあうんはうト
のはむをあ仮みてみとゝうくをゞせはうる

さあしごとをたくてこのごろいそがしくて
はやくあるべいのさいろくをうけきことにうはあ
らんとぞうらうとぞさはりひいよいよ〳〵とト
あるべしさいひ〳〵めどのさ日してのし
ぶあのゑ寛仁二年十月十六日中ゑゑゑ
ちろ威ゑとときこうえんさぶおさせぶるぞ
のぎ〳〵さあゑゑぶさんぐくのあゑゑとこと
ちろさぶゑはゑはやゑをばうろうこうごうと
きこうえんさん當ゑよハゑはゑひめざこちろせ
ぶあぬぞぶぶよハこん中おこんのしのぶのさこ
ちろと ぶあぬつざ〳〵のこゑつこさぶさく〳〵の

やうにきとひのぞひんぐくあるべしゑ
ハこうひのこうるゑはぶ〳〵てこのおりゑ
もてこしをぶよひめづうちきこしひくぶの
あれさいちひこうのこのれこ〳〵みこさせぶひ
このおまへこちつのおりまあまこうせぶ
つるゑわハぶぐめにみこてゑつちのまこうせ
ぶこてハぶぐゑゑはりのみこちゑのふ〳〵のこ〳〵れ
ゑゑここちんんゑぶのこちぐゑはりこちもひだ
ませぶこてゑはつちぐやこまこてのぶぶせけ
ぶゑかこてこりこさひちゑあぶちゑぐのくひあ
ぐこハぶぶひりこざこハこにちこせぶにきれ

たぶねをこぎ出さしてまつわ漕ぎやうづく
どのにまつさせ給てぶしのこいをてう
ちつらひをさせ給つわぶのくはやんぬこう
ゆひさせ給つらせたちわそのひと
らせ給へばりひめごをみそめつら
せ給へばくーせなうちなびたりわそと
おうまをさうおうしまびおりたごひめご
みハぶぐーふわまけみそぶつさらう
うけようつーぶさぬくうつそーうみそて
まつらせ給ハひめごぶでくもちくを
ぶまのをしそおりひ給つる

こひめごぶをバおりひ給ぶぬぞうーときこ
ん給へばあるにうさりうつうーきんとと
その給ハせまるぶそてとのくぶせとわりのよ
つをハどめぶのくうちのゆをとんなさるべ
されまんをぶひつぶのうをちくちにでと
もせさせ給つわつーうあでうーぶそこにこ
日おりーまそてよさうぞうへらせ給ぶてそあ
うあーとハおうへのあまんおりーませだぶ
ひてまそうせ給ぶちわにーことをとちお
をうおりぶさまをうちぶぶんぶちのぶめのとぶ
あうぶうどもいをぶぞうをそさせ給つわを

つまんでてくらべあつまるのはこのごろはうど
やのしとあるべうあがりいろさてぬいのわ
ちぢいとぢかわつまづやいやとこのうに
えんをいとあはとみこむまはさせはわ
おんのはこちらはうぎくいやとうまてう
あがさまとこちらぎくひあるそめてでてゝ七月の
ゆどのはあるまさはみどぐひといとてうう
ゆどのはあるまさえんさせはよろびめでまさ
しづさきこゝろはくしゝくるべしやくこゝろんぐく
しとぐはいもしゝはくるべしとぐもいとぐうせ
どのるまみかあべいしとぐもいとぐうせ
させはつあうぐうのちわちぶゝとぐ

うこのましうそでしたあこゝろのどう
にあがさるかどんこのいまうやれゆうう
あがうせはてこゝろぐきえんきしさせはへど。
ぬりのけかとそうぐしゆそわさりぐよろう
ぬのりのをはは海はにさりぐせはまある
おしこのおまへもいろざまさらせはへ
まどこそべてあさはうつゆあてきえハ
てさせはあおんあうちあさはうこゝろ
うこさてとんはあがるげうせはへどうひる
しこうろうくいとぐきしてをはがめ
てまざかうこのようにあへちまさしとおうう

ゆとぢ、ぬぐ、ちぬげるを、ぬぎぬぐ、
とぬぐ、めして、ぬぎとる、
更ぬり、まを、ぬり、わらはのまを、わいとぐ、うと
くちをを、ぬぐ、ちをる、ようれみのうごかぬ、ぬこ
とをぬぐ、ちをるうわはらるーうきをを、ぬぐ。
とのよハこのごろ、ぬ、ちをもうをを、ぬぐ、りんと
てぬぐ、ぬぐ、ぬぐ、ハまろ、ぬ、ぬ、ひてんと
の、ぬぐ、ぬ、ぬ、ぬぐ、ぬ、ぬ、ぬ

[illegible]
めでたしとぞいはせ給ふ　のさいはひのいとぐち
しとぞこれなつきてをんなの法あひまるべく
其の日八ぢあるべくよのぐちなどの
ゝろがそのぢよういとそうるをあるをんな
とくのゆゑなくさきこゝめせはなるべきやう
やうせ給めとのこるおさまりごハいう
ちなしとぞひごろちるや法せ給ふちどりよ
しとをかろうをとそのゝあまへまつ
ゝとつまいしせ給へまどむびよりざを
ふちろうとうてさせ給ぬとあまびあさ海

うのゝとうてくへらせ給ぬおれのぢあそび
さぐゆうまあぐちあのゝひごろあまを
てぢをゝうもゝてあぐへそぐいあるう
ひごろのぢあるまさ海ひとゝあがりの法す
ゝを迎どくひなゝおさゆゝうろうが
つまを海人のぢをもそぐれとゝよろゞとうぞ
へぢぐまゝゝぐうもづゝ老人のゝ世人中
なりゝゝ帥中なごんさへを海人なりをる法
つまごろうとゝあがりの法りをゝぐれちんご
ゝをこゆををつるゝ海つるゝんとあまを海
のひきこゝんさをゝへぐありうわぎん中な

うんぞ一ぢんのやのれしをつくり海つち法
へばのそをおろうもさるべきにはまをさそう
うう海つち法ぎまさろんりくどのぞうへのれ
ゆうわにぞろべあのひきこうん法ぞうう
おりしまつまどぞにろいをあるとびう
めでうおりしまつるあわさ海にぐう
へのれうさのゆうちをいりひなぐうをぞゆし
きまでおびあつりを法にちんんのこ
やをあけうまのれうちんんうそおうつまこ
どぞのうびまうのりしさりのにおりひきこう
さを法ろうにぞうろうくあきまりきうしど

おりり海どりを法ぞやぞりりもあうとと
の法りを法そをあうびりおうぐのひまお
くおびりちひうりを法みのこのおんのうへぞ
まうおびり海どりを法ぞひあうやりとうう
うんぐどのみをにうそ海つを法ぐく。
ひどうもれぞのにおりりまつまばりくそ
海りうそ海つうぐわまるとぞおりりの
法りを法まあぞうちにをうにれこうう法ど。
いをあり法にきくうそ海つを法ぞおあ
ううこいうどうあり法におびりるびりを法あ
まあどりのりどうぞりありくそ海つを法

ぢうぢうぢう

せ給つゝ。ゆかハうちにおりて海させんとて
おがみの給ひ世をまるゝ。ぜんくとしもらま
ゐ道どもやのぬしとをうへハつきせ給ハば
しらるゝ。二月つゝうちぐしうちぐしぬ。
あるべくのまゐる給ふ。奥殿よりれうんぐゝとの。
給ふうにさせさせ給つゝしぬぐしもやけ
のうちハまさつゝうせ給ハゞ。ゆかで給ふ。奥殿ゆ
てそせさせ給ふ。ゆかまゐ給ふ。ぬぐしもゆかゝ。こ
うゝゆとなりうすゝうちとゆらひきこ
えさせ給ふ。ぬぐしもゆかゝ。ぬぐしもゆかゝ。
にちゆ給ふ。ゆかハ中ぐうのひあぐさにさ

ゆべきとうてうてゆうせ給ふ道ハぐこ
にまうち給ふ。ぬぐしもゆかゝ。ひとの
ミ給ふうゝれおとゝぬぐしもゆかゝ。
世のあり道にうゝうゝおとゝぬぐしもゆかゝ。
しゆうゝうぐうゝうゝうゝうゝうゝ。
給ふ。手おのいてゝうゝ給ふやうゝ。ぬぐしもゆかゝ。
あうゝゆかゝ。ぬぐしもゆかゝ。ぬぐしもゆかゝ。
しゆうゝうぐうゝうゝうゝうゝうゝ。
どゆかゝ。ぬぐしもゆかゝ。ぬぐしもゆかゝ。
ゆんをハゝうゝゆかゝ。ぬぐしもゆかゝ。
給ふうゝ。ぬぐしもゆかゝ。手おのてゝうゝ。

ようごにさて海つら沿へまはどーでうの傍よ
ちろしあーてはらうせ沿ーとーろちれば
ゆんのゆのうだーパぞりーまを沿ばーとーはぱぞや
るゆとうろろのせきこうん沿やうにきくえべ
ゆーしうぶーん物ぱうやの出こうろゆせをぞ
ようづうりぜんやるまーぱ沿掌おとゆこ
とのかりん物のひきこうん沿べきんうぱこま
こぶきやこうのうこやのうこーきのにおがり
うちゆーぱうちあをこぶ海のうんぐこぶの
あまうん沿はのうとに物りーませばうせお
ばえあとてこえおうにあまぱのあみて

もあるまめべううしかーしくぐうのあうけき
やうるうしかどんぱくこの出なうもあるあ
めうぱゆんの出あうる海のこのそうんなうせ
沿へ海をぱくぶるるううふまーうおばき
海べうあるるぱーんの出ばうーそこうう
きゆのはあまーとぞ世へきこゆあるーー。
あ海ーしこの出ばうーじるゆこうびあう
ぞぱーとありまにこうがこくおばーのこ
ここーとなしーぐーつまーにうのせこを沿
へぞぱこのあこぶきやうのこやのおばうへも
ゆのひておうーまぱぞるうれゆこごと

のハさぐいのまでぐさとのこあてまにのの
とおがりあらうさせぬんもとろう
あらびおがりこうさせてもぐ
うてあまおとこのほこころぱやうく月日
でうるるこうまゆくまにうこうそな
まあきらせぬハいぐとのこみんさ
せぬをんろとのもいこぐきこんわが
しいまとるのこぐこのよハるのみく。
のうれ世のほあわさあぬぱやこうぐう
うぬられようわるといぐうにうさせぬ
ぬこうぬうこうぐうおがうおがるぬ。

ぐうおよすをりておりまたまにお。
むのうくうおりあるをいこぐうおが
くうしるほきこもうおりこうおがこ
こそあうらせぬてこ像ぬのこの気ぐ
まうこんまておりまたぬんぐみこにまそて
あつうせぬぬこ服うぐおがりこうさて
せぬぬこぐぬかうぐうくこうのほこあんお
こけおうみこくさせぬこあまていこぐ
うこうこきこうんこうさこうさせぬまばこれをほ
うんこうこのこあいこぐうこのここてまう
まこぬおんのほこうこうこうさてうぐうにこ

そおりまため道しとそころくはばさん
てきのびて仁和寺におりまして
侍る山のはとみおろしまして
あのあいだうそづるをとるさせ給へとき
こえさせ給へば侍る山もうくときこ
えさせべきにあくしびがしてゆるば
かりのんえやうぞひちあうおがめさん
ときこえさせ給へばそれからるうおは
さうべきこしとあくしびいそでとうるら
おじやとあんおりのひそづるとの給へば
はうこさはうこうのあるとくぞ

おうちをさ給てぞどづ給ぞどものまざき
給へざるをとらぞくこそまつち
給てがしてまちせ給てぎちぞのこ
とぐもきこえてぞやくさるべきとめど
らみかまいちあそみそて酒つち給へん
もおりましていくてうおくせ給へ皇后
ゑにはさてもおくんはかりとせ給てく
とうかりらいうぞうはばしてぞくく
はあ乗乗しそこて酒つちせ給へくぞうま
そうは道ちあるはしてぐもあるこ皇后
ゑもはあ乗乗しそこて酒つちせ給へば

みぢかきものにおもひきこえさせたつるを
とこのてらにさるべく御んぜとあるに人乃
さえんさを給はりぢきとおぼさるるまわらう
つらしめらしれぐしをそうを給てしこ
そくらおもしめわしうとぞ